大阪有機化学工業株式会社 2022 年 11 月期　機関投資家向け決算説明会　　質疑応答要旨	
日　時	2023 年 1 月 13 日（金）　13：00～14：00
開催場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 （東京都中央区大手町 2-2-2；野村證券|アーバンネット大手町ビル） ＊電話会議システム使用
当社出席者	・取締役 執行役員管理本部長 本田　宗一
参考資料	「2022 年 11 月期　決算説明会資料」（2023 年 1 月 12 日開示）

※この資料は、電話会議における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1	半導体材料の新年度計画における上期・下期の前年対比について
A-1	半導体材料の売上高は、2023 年上期は対前年同期比 10%増、下期は同 5%増、年間では同 8%増を予想、上期は 2022 年下期と同程度。2022 年は年間で前年比 19%増でした。
Q-2	EUV 向けの動きについて
A-2	EUV 向けの売上高は、2022 年は前年比 2.2 倍に増加、2023 年も増加傾向は続く見込み。半導体市場に比べて伸び率が高いのは、先端材料の調整は少ないからとみている。
Q-3	2023 年の売上・利益の増減要因、価格転嫁の状況について
A-3	化成品は減収、電子材料・機能化学品は増収の見込み。償却費が 2.6 億円増加し、原油高の影響もあり減益の見込み。価格転嫁については、化成品においてはナフサ分の 9 割弱は転嫁済み、機能化学品の神港有機は転嫁が遅れている。また、燃料分の転嫁は厳しい状況が続いている。
Q-4	説明会資料 12 ページのグラフで、半導体材料の 2023 年（予想）1.97 とあるが、先ほどの説明（Q-1）の 8%増との関係について
A-4	資料 12 ページの棒グラフでは、当社の製造量（2019 年比で 1.97 倍）を表しており、Q-1 では売上高が前年比 8%増を予想しております。
Q-5	表示材料の売上高の増減について
A-5	表示材料の売上高は、2023 年上期は対前年同期比 5%減、下期は同 20%増、年間では同 8%増を予想。2022 年は年間で前年比 15%減でした。
Q-6	説明会資料 22 ページ注力製品のμLED 用レジストについて
A-6	フォトスペーサーの技術を利用したもので、発光体を入れる箱を作るための圧膜の隔壁材を現在開発中です。

Q-7	電子材料の新年度計画について、半導体レジストメーカーの需要動向は、2022 年 11 月頃までは底堅く推移したものの、年末年始にかけて急速なオーダーカットが見られている。表示材料についても、最近の最終需要に比べて少し強気の計画ではないか
A-7	計画は 2022 年 10 月から 11 月に策定しており、当時はフォーキャストの引き下げ等はなかった。当社の半導体材料は先端の ArF・EUV 向けであり底堅く推移すると予想した。表示材料については、2022 年は前年比 15%減で、2023 年は同 8%増と回復を慎重にみている。
Q-8	EUV 向けが 2022 年 4Q で大きく伸びたが、今後の継続性について
A-8	昨年に比べて、販売が安定している製品が増えた事や、製品の種類も増加し、その中に数量が多い品種もあることから、本格採用となったとみている。
Q-9	新年度の計画で、上期・下期の売上高・営業利益の増減について
A-9	2023 年上期では、化成品が前期比で大きく減収、電子材料と機能化学品は増収の見込み。下期では、化成品が回復し、全体的に増収の見込み。営業利益については、2023 年上期は減価償却の負担が少ないが、下期は新設備の償却負担が増加することから、利益が出にくい見込み。
Q-10	2023 年下期で化成品が増収となる要因について
A-10	ディスプレイ用粘着剤向けや自動車用塗料向けが、2023 年上期から下期にかけて回復することが増収の要因と見込む。
Q-11	2022 年 4Q の表示材料と半導体材料の新旧会計基準における対 3Q の売上高増減について
A-11	新基準では、表示材料が 40%増、半導体材料が 5%減。旧基準では、表示材料が 40%増、半導体材料が±0%。
Q-12	半導体材料の新規設備の建設状況について
A-12	特に遅れはなく計画通り工事が進捗している。
Q-13	EUV 向けが軌道に乗ってきた要因とメタルレジストの影響について
A-13	顧客のレジストメーカーにおいて開発が活発に進んでおり対応している。今後更に EUV 向けが増えていくと見ている。
Q-14	ArF 向けの今後について
A-14	ArF・EUV 共に伸びていくという見方に変わりはない。

以上